

## ■議案第84号 四万十町国民健康保険条例の一部を改正する条例について

---

### 【要旨】

今回の改正は、産科医療補償制度の見直しと併せて出産育児一時金の金額を見直すものです。

### 【産科医療補償制度】

制度に加入している分娩機関（分娩を取り扱う病院・診療所・助産所）で生まれた赤ちゃんが、分娩に関連して重度脳性麻痺となり、所定の要件を満たした場合に、赤ちゃんのご家族の経済的負担を速やかに補償するとともに、脳性麻痺発症の原因分析を行い、同じような事例の再発防止に役立つ情報を提供する制度です。

産科医療補償制度の掛金については、1分娩当り3万円でしたが、平成27年1月1日以降より2万4千円に変更され、本制度の剰余金から8千円が充当されることとなったため、1分娩当りの掛金は1万6千円となります。（産科医療補償制度ホームページより抜粋）

掛金については分娩機関が支払うこととなりますが、この掛金は分娩費用に転嫁されるため、出産育児一時金に加算されて支給されています。

### 【改正の内容】

#### 1. 健康保険法施行令の改正関係

##### （1） 出産育児一時金の金額の見直し（健康保険法施行令第36条関係）

出産育児一時金の支給について、健康保険法第101条の政令で定める金額として健康保険法施行令第36条に規定する「39万円」が「40.4万円」に改正されます。

これまで、掛金に加算された出産育児一時金の総額は42万円（39万円＋3万円）となっていますが、改正により支給内訳（40.4万円＋1.6万円）は変更となりますが、支給総額の42万円の変更はありません。

なお、同条において、産科医療補償制度に加入する場合に、3万円を超えない範囲内で保険者が定める金額を加算することとする規定自体は変更されません。

#### 2. 国民健康保険条例の改正関係

##### （1） 出産育児一時金の金額の見直し

1（1）を踏まえ、出産育児一時金の支給について、四万十町国民健康保険条例第4条に規定する「39万円」を「40.4万円」に改正します。

なお、本条例の改正に伴い、四万十町国民健康保険条例施行規則を一部改正し、加算額について「3万円」から「1.6万円」へ改正することとしています。

【新旧対照表】

| 改正後                                                                                                                                                                                                          | 改正前                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(出産育児一時金)</p> <p>第4条 被保険者が出産したときは、当該被保険者の属する世帯の世帯主に対し、出産育児一時金として <u>40 万 4 千円</u>を支給する。ただし、町長が健康保険法施行令（大正 15 年勅令第 243 号）第 36 条の規定を勘案し、必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、これに 3 万円を上限として加算するものとする。</p> <p>2 (略)</p> | <p>(出産育児一時金)</p> <p>第4条 被保険者が出産したときは、当該被保険者の属する世帯の世帯主に対し、出産育児一時金として <u>39 万円</u>を支給する。ただし、町長が健康保険法施行令（大正 15 年勅令第 243 号）第 36 条の規定を勘案し、必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、これに 3 万円を上限として加算するものとする。</p> <p>2 (略)</p> |